

構築会兵庫支部 平成23年度見学会の概要

平成23年度の見学会は、昭和の大修理から45年が経過し、損傷が目立ってきた大天守を中心に保存修理工事が進む国宝・世界文化遺産の姫路城に36名が参集して、10月の絶好の秋晴れのもとに開催しました。

この姫路城大天守保存修理工事は平成21年秋に着工し、概ね5年間の歳月をかけて繊細な工事が進められています。工事が大規模でかつ長期にわたることから、文化財の保護や保存修理に対する理解を得るために、大天守を覆う素屋根内部に見学用のスペースを設置して修理現場を公開しており、伝統的な工法による修理の様子を間近に見学することができます。

8万枚を超える屋根瓦の葺き直しや漆喰の塗り替えなどの職人技もさることながら、釘一本打つことさえ許されない特別史跡である地盤上で、資材の搬入路や大型クレーンの施工基地となる仮設構台を設置したことをお聞きし、まずは感嘆しました。さらに保存修理見学施設として利用される素屋根建設に際して、建物に傷一つ付けることなく、複雑に重なる屋根の軒下すべてに足場を設置し大天守全体を鉄骨で包み込む工事の難しさ、この仮設構造物自体の台風対策、そして、これらを見事に克服した施工者の技術力に敬服いたしました。また、図面が古いこともあり、現場と図面が必ずしも一致しないといったご苦労もお聞きし、この類の工事の難しさをあらためて実感したところです。

工事概要説明をお聞きした後は、姫路城シルバー観光ガイドの方のご案内により、修理中の大天守を見学施設「天空の白鷺」から眺めた後、城内を見学しました。最後に、素屋根で覆われた姫路城を背景に参加者全員で記念写真に納まり、見学会の全行程を終えました。見学会終了後、ライトアップされた天空の白鷺を眺めながらの懇親会も大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

